

## 近畿支部活動報告（R4年秋以降）

高齢にもめげず、よく活動した一年だった。  
老兵は、元気な後輩の活躍を期待しています。

### 磯城（しき）・山邊（やまのべ）Pw

・実施日 2022 10/28(金) 報告 加藤 (11期)  
山の辺の道、北は天理市から南は桜井市、踏破すればテーマになるが、シルバー世代では辛いものがある。そこでひねり出したテーマが、「大和（おおやまと）神社」である。あまり知られていないが、ここの神様は、古代は伊勢に匹敵する神であったようだ。伊勢の方を「神」とするなら、こちらは「祇」である。古くは二神共に宮中にあったが、あまりにも神威が強いため旅に出され、片方はめぐり巡って伊勢に、こちらはほぼ現在地に近い山麓に落ち着いたという。

平安時代になると大きな神社には管理する役所が置かれた。神宮寺がそれで、その長官を別当という。大和神社の場合、長岳寺がそれである。神仏混淆が進むと、神様の居る建物はあるが、もう中心施設では無くなっている。石上神社の神宮寺である内山永久寺は西の日光とまで言われるほどの荘厳な寺であったのに、神様は北隅の布留社という建物が与えられる程度であった。大和神社もそれに似たようなものだったと思われる。

明治になっての大地震、廃藩置県による寺社の領地没収による経済基盤の喪失と、神仏分離令とが寺社を襲った。時代の趨勢を見てか、内山永久寺は廃寺とし、北隅の布留社を中心に石上神社に編成替え、大御輪寺は廃寺となるも同じ場所で大神神社となった。仏像仏具のすさまじい破却もあったという。幸い大師信仰という経済基盤があった長岳寺は廃寺を免れたがかつての勢いは無くなった。一方、大和神社は古に復され、結果的には神社も元神宮寺も共に生き残ることとなった。

10時。まほろば線。周囲はほぼ農村地帯の長柄駅に金沢からOB会長の黒崎さん、桑名から森川さんを含め参加者12名全員が集合、すぐに出発した。駅近くの集落に天理教教祖の生誕地があるというので門前まで行った。ここから大和神社は指呼の距離だった。戦前は官幣大社だったというが、さほどには感じなかった。強いて言えば、「戦艦大和」にはここの神を祀っていたというので、艦の資料館や石碑があったぐらいだ。

参道を東に進み柿畑の坂を登り山の辺の道に合

流した。柿の無人販売所が所々にあった。こんな場所で女性たちが嬉々とするのは何故だろう。萱生環濠集落のはずれの常夜灯籠からは南下、迷路のような道で歯定神社に着いた。大和神社の御旅所とあった。我々は昼食場所とした。一帯は古墳の宝庫、地形図を見ても大小いろいろある。

小さな小川が旧の磯城郡と山邊郡の郡界であるが、ほとんど気づかずにすぎてしまった。



<山の辺の道：萱生集落付近>

長岳寺の門前には昔ながらの勧請縄が張られていた。楼門の前で拝観料400円を払った。本堂では、ボランティアによる極楽図の絵解きがあった。が、見事な仏像を見ていたら、それを察してか、仏像についても説明してくれた。増長天と多聞天は平安中期の作で、神仏分離時に大御輪寺から移されたとのこと、そのことが印象に残った。

巨大な崇神天皇陵では、堀の相当に高い堰堤を歩いたが、本当に古代の技術かと疑った。黒塚とその博物館も見学し、長岳寺の五智堂まで来た。

鎌倉時代の建築。塔の側面がなく心柱の一本足と屋根だけの堂で、東西南北に梵字額がある一風変わった建物だった。かつ、昔の寺域がここまでだとすると往時の寺の勢いが想像できた。

途中にある旧柳本村の道路元標も確認し、柳本駅には16時頃着いた。山の辺の道のあたりは、のんびりと歩くには良い場所と再確認できた。

### 六甲・菊水山Pw

・実施日 2022 11/14(月) 報告 加藤 (11期)

菊水山、こんな素敵な山名は昔からあるはずがないと思っていたら、案の定その通りだった。大楠公：楠正成の討ち死に地が湊川、その後、水戸黄門様が近くに「嗚呼忠臣楠子之墓」を建てたものだからそれが基礎となり、明治時代に湊川神社が別格官幣社第1号として創建された。神戸市民が「楠公さん」と親しんでいる神社である。

菊水山の旧名は城ヶ越山だったが、S10年の楠公600年祭の時、山腹に菊水形に松を植えて以来菊水山というようになったらしいのだ。

ここは高村さんのお散歩コースなので、山行きの企画として頼んだところ「簡単すぎないか」という。それで最終的には市街地まで下る計画、途中には明治時代に作られた水道施設、さらに下れば清盛の福原の都もあるので、ちょうど良いということになった。今回も高村さんと智美さんの女性リーダー。秋は女性リーダーが定番になった。



<菊水山登山口にて>

神戸電鉄、始発駅の新興地は地下。5つ目の鈴蘭台駅が標高300m。まるで登山電車だ。それだけに運賃も高い。参加者12名全員がこの鈴蘭台駅10時に集合した。金沢から上馬さんが、福井から間所美智代さんが参加してくれた。しばらくは電車の線路に沿って歩き、登山口で小休止。ここから谷筋の山道に入った。流れとわずかに色づいた木立が気持ち良い。30分ほどで100m登り自動車道と合流、そこから頂上までのんびりと歩き、11時半には菊水山頂に着いた。

女性リーダー二人が巨大な卵巻きを準備。そうして、その日がちょうど誕生日の伊豫さんの指揮下で巨大卵巻きの「大中小」儀式を楽しんだ。

下りは車が来ない自動車道の方を歩いた。早い紅葉が嬉しい。登山口近くまで下り、しばらく線路に並行して歩く。線路と別れ、烏原大橋を渡ると、右岸に有名な妙号岩が現れた。妙号岩というから「南無妙法蓮華経」と書かれていると思うだろうが、「南無阿弥陀佛」と書かれているのだ。何とも「妙」である。辺りはそそり立つように巨大岩ばかりである。道の先に石井ダムがある。しかし、ダム湖にはほとんど水がない。それもそのはず、大雨の時に一時的に水を貯め、下流に負担をかけないためのダムなのだ。ダム周辺も堰堤の上も広く、まるで遊園地のよう。ダムを下る階段も

安全で楽しく歩ける設計になっていた。

ダムの下からはしばらくで六甲縦走路と合流した。こんな山奥なのに、付近には建築美を感じさせる明治時代の水道設備がある。水を流すトンネルの入り口にも当時の県知事の書で「放水門」と揮毫された扁額があった。縦走路と別れて今度は烏原川のダム湖の左岸を歩いた。歩行者専用の散歩道である。真っ赤に紅葉した大木があった。

立ヶ畑ダム。神戸市の水道水源として日本で4番目に古い重力式ダムである。アーチ式ダムを思わせるようにややカーブしているなど実に優美な姿をしている。4番目のためか神戸市民でも知らない人が多い。港でも神戸ウォーターが有名なのは、ひとえにこのダムのお陰であった。

右岸に渡り、山に沿って歩くと稜線が尽きたところで、右手に突如神戸の市街地が現れた。断層が尾根と谷を東に引っ張るといふ奇妙な地形が、驚きの景観を生んだのだ。突然の市街地。急な階段を下ればバス停はすぐだった。ここで解散はしたものの、「清盛も入ったかも・・・知らんけど」、何人かは古くからある湊山温泉に向かった。

## 京都・大悲閣Pw

・実施日 2022 12/5(月) 報告 加藤 (11期)

嵐山の近く、地形図にも記載されている気になる場所が「大悲閣」である。調べると、どうやら角倉了以と深い関係のある寺であることがわかった。簡潔にいうと、角倉了以が開削工事(保津峡と呼ばれる区間を舟で通行できるよう)で犠牲になった人々を弔うために嵯峨野からここに移転した寺であるという。晩年に了以も過ごしたとのこと、なんとなく文化的香りがする場所である。

下見の時は見事な紅葉。観音堂(大悲閣)から紅葉を通して眺める京都が素晴らしかった。しかも、まだ観光地化されていない隠れ家的な場所であるが、外国の京都通の観光客には良く知られているようだ。崖地の上にあるのでほとんどの建物が傷み、再建に努力しているご住職の懸命な姿は他の寺と違っていると感じた。

実施当日、10時ごろには阪急嵐山駅に集合。渡月橋あたりで合流すると約束していた高水間さんからの携帯連絡があったので、駅を出た。やはり人が多い。中之島で全員揃ったので、小渡月橋を渡り桂川の右岸に出た。少し上流に向かうと人が

激減する。しかし紅葉は見事。嵐山側が怖いくらい急峻な崖となっている。大堰川と呼ばれるこの辺りは、川下りの舟のためにやや水位が高くなる工夫がされているという。なおも行くと、川幅が急に狭くなるとともに川底の岩が見えてきた。なるほど、川の開削というのはこの川底の固い岩を砕くことなのだ。往時としては非常に困難な工事であったろうと推察された。小渡月橋から約30分後には大悲閣の階段下に着いていた。



＜大悲閣の住職に入ってもらったの記念撮影＞

ここからは一本道なので一旦解散。大悲閣に早く着いた人から展望を楽しむこととした。

標高差は約50mばかりなのにそれ以上と感ずるのは、予想より急なためか。幸い途中でベンチがあるので休憩しながら登れた。約15分で全員が大悲閣に揃った。梵鐘の音が対岸に届くくらいに心地よく響いた。京都でも、こんな風に鐘を撞かしてくれる寺はごく少ないだろう。拝観料を払えば梵鐘を3回撞けるのだが、それは人の少ないときの話。我々は一回ずつとした。銀杏の黄葉が見事だった。ご住職と幾許か話し、最後に記念写真を撮り、また来ることを期し寺を辞した。松尾社へは、ほぼ西一ノ井川に沿って歩いた。山際の月読神社、鈴虫寺を過ぎ、地藏院を拝観した。ここは一休さんが過ごした寺であり別名竹の寺としても有名である。紅葉の最盛期は過ぎていたが、靴を脱ぎ方丈で寛ぐのは気持ちが良い。有難いのは、ほぼ我々のパーティだけだったこと。

次いで、近くの浄住寺へ。つい先日まで特別拝観料を徴収していたようだが、無料拝観に変わっていた。それでも、残り紅葉を存分に楽しむことができた。解散地の上桂駅まで約20分だった。

## 高槻茨木古墳巡りPw

・実施日 2023 1/20(金) 報告 三宅 (15期)

大阪北摂の高槻茨木には意外に知られてないようだがたくさんの古墳がある。今回のPwでは「今城塚古墳」と「阿武山古墳」に加え「京都大学地震観測所」などの施設を見学した。これらの古墳、観測所はいずれも名探偵浅見光彦が活躍するミステリー小説「狐道」「金色の眠り」の舞台となっており興味深い。(作家「内田康夫」の絶筆となった小説)

JR摂津富田駅に9時30分集合。桑名から森川さん、名古屋から野村さん、金沢から上馬さんが参加で総勢16名。大阪医科薬科大学の学生で満員のバスに乗り今城塚古墳へ出発。10時過ぎに今城塚古墳前到着。広さ9ヘクタールの広大な敷地内にある墳丘や内堀、埴輪祭祀場を見ながら歩き「今城塚古代歴史館」に到着。施設内のジオラマや展示物などを見学した。

「今城塚古墳」は6世紀前半に築かれた淀川流域では最大級の前方後円墳で学術的には531年に没した継体天皇の真の陵墓と言われており、平成9年から行われた発掘調査により日本最大級の埴輪祭祀場や墳丘内石積など貴重な発見が相次いだ。なお、宮内庁では茨木市にある「太田茶臼山古墳」を継体天皇陵としている。11時15分今城塚古墳を出てハニワ工場公園に向かう。途中「鬮野(つげの)神社」に寄る。神社への参道が名神高速道路の上を跨いでいる全国でも珍しい神社である。12時「ハニワ工場公園」到着。ここで昼食。ハニワ工場は西暦450年頃から100年にもわたって操業していたそうだ。残存する当時の窯を見学後、12時45分慌ただしく出発。ここまでの行程で少し遅れていたため13時30分からの「京都大学地震観測所」の施設見学に間に合わなくなるためだ。



＜今城塚古墳のハニワと＞

「時間大丈夫ですか」と施設の責任者の方からも心配の電話が入り焦った。地震観測所は阿武山(281m)の山腹にあり少々きつい登り40分の車道をあえぎながら登った。8人のスタッフに迎え

られ何とか予定通り 13 時 30 分に到着。施設見学は通常 2 時間だが特別に 1 時間に短縮してもらったので慌ただしかった。始めに「地震の仕組みや地震学の歩み」の講義があり、その後 2 班に分かれ「歴代地震計の見学」「屋上からの展望」などを楽しんだ。屋上からの展望は素晴らしく眼下には大阪平野が広がり天王山から生駒山、金剛・葛城山などを一望出来る。観測所の少し上に「阿武山古墳」がある。「阿武山古墳」は昭和 5 年に建設された京都大学地震観測所の建設工事中に偶然発見されたもので、棺の中にはミイラ化した 60 歳位の男性の遺骨がほぼ完全に残っており身に纏っていた高貴な衣装、副葬品などから「藤原鎌足」ではないかと言われている。阿武山古墳からは緩やかな登りを 20 分歩き「阿武山頂上」に 15 時 15 分到着。計画通りでほっとする。

山頂では、羊羹の差し入れを近畿 0B 会恒例の「大中小のじゃんけん」をしていただく。毎度の事ながら子供に戻ったようにはしゃいで楽しいひと時をすごした。山頂からは下山 30 分で最終目的地の阿武山口バス停に到着。皆さん飛ぶように降りたため予定より 20 分も早く着いた。予定通りのバスに乗車して 30 分、16 時 55 分 JR 摂津富田駅に到着。解散した。

最後に、Pw の前日 1 月 19 日に 15 期金井さんの訃報が突然入り生前の彼を偲びながらの Pw になりました。阿武山頂上では参加者全員で「いつかある日」を合唱したり、棺に入れてもらう色紙に思いを書いたりして金井さんを偲びました。解散後、多数の方がお通夜へ駆けつけるなどバタバタしましたが思い出深い Pw になりました。

## 姫路城の堀と城門巡り Pw

・実施日 2023 2/20(月) 報告 加藤 (11 期)

姫路駅に降り立つと、道路の奥にすくっと立つ天守閣が見える。しかも、小天守が脇侍のようにならんでいる。まさしく「美」そのものである。それ故、つい天守閣に足が向いてしまい、安くもない入場料を払い、「い」「ろ」「は」など忍者のような名称の門をくぐり、天守閣の最上階で「ああ絶景かな〜」と満足気分に入る。それを否定しないが、姫路城はもっと多面的である。

西国大名に睨みを利かす目的で整備したこともあり、この城主は基本的に譜代大名である。領

地もそこそこ与えられたが、釣り合わないくらいに城が立派で、修理に追われたという。姫路が裕福な藩でなかったのは、そこに理由がある。

姫路城の堀は螺旋形にできているが、なんらかの工夫で内堀、中堀、外堀が存在する。それぞれの堀の内側を内曲輪、中曲輪、外曲輪といい、内曲輪は行政府、中曲輪は上級武士や一部の社寺、その他は外曲輪にあった。明治維新、姫路城の場合は内曲輪、中曲輪が公の域内とみなされ、上級武士は立ち退き対象となり、そこに軍隊が入ってきた。中曲輪が広大であったためと、名城であったために、本丸、二ノ丸、西ノ丸の多くの櫓が破却されずに残った。また、軍の用地であったために、石垣の多くが残った。堀もしかりである。

今回は、天守閣をいろんな方向から見ると、堀の構造をグルグル探り歩く Pw とした。



<姫路城の展望地、男山山頂にて>

集合は JR 京口駅、西国街道の外曲輪の玄関である外京口門がすぐ近くにある。定刻前に 11 名全員がそろった。まずは外堀川へ。明治時代に生野からの銀輸送道路建設のため半巾が埋め立てられたがよく残っている。川沿いに歩き、竹ノ内門跡に。川はここから西へ直角に曲がり、さらに西北に折れている。我々は、ここで外堀川と別れ、中堀に向かった。堀の内側は中曲輪だ。煉瓦建ては市立美術館、以前は市役所、戦前は陸軍の被服倉庫であった。ここではやや細身の天守閣が煉瓦建ての建物の上からのぞいている。こんな風景は珍しいだろう。国立病院に沿って 180 度旋回し、再び中堀へ向かう。堀の中曲輪側に久長門跡の石垣がしっかりと残っている。外曲輪に出て中堀に沿って歩いた。南東の角には内京口門の石垣がほぼ当時に近い形で残っていた。

ここからは、泉鏡花の天守閣物語の題材となった長壁という崇りの神様に挨拶しに総社に向かった。実は、長壁とは忍壁とも表現される刑部親王のこと。崇りとは関係のない人生だったそうだ。話題の崇りの神になりうべきは、非業の死を遂げ

た他戸親王であり、他戸（おさべ）と刑部（おさかべ）の言葉が似ていることから、混同がどこかでおき、間違っただけで伝えられたらしい。

総社からイーグル姫路へ。エレベーターで屋上に出て城を眺めつつ昼食とした。地元の人のみぞ知る、かつ姫路城正面展望第一の場所である。

食後、内堀の正面門である桜門から内曲輪の三ノ丸に入った。正面からの姫路城も良い。が、秀吉築城時に大手門だった東側に回る。石垣を見上げると、堀と天守は見事だ。次いで螺旋の堀の出発点となる泉へ。一見何でもない泉だが、仕掛けを聞けば笑える。泉の横の八頭門跡の石垣から、北勢隠門、清水門と姫路城の裏側の城外に出た。

男山はもう一つの展望台だ。ここの特徴は3つの小天守も見ることが出来る絶景の場所なのだ。

再度、裏から中曲輪まで戻り、内堀に沿って南勢隠門を抜け好古園前へ。お疲れの金岩さんがバスに乗るのをここで見送った。黒崎さんは大丈夫という。一之橋門を出ると、千姫の小径という細い道で中堀と外堀が接しているの、この道を南下、車門から再び中曲輪に入った。埋門跡では石垣をよじ登った。石垣の上は櫓があっただけに意外と広い。ここからは姫路城がよく見える。ここからは中堀が埋め立てられ、今や国道になっている。鷗（くまたか）門は昔の桁形がそのまま残っている。中ノ門を過ぎれば、ほぼ中堀を一周したことになる。姫路で一番古い喫茶店「大陸」に寄り、コーヒで今日の完歩を祝った。

## 石清水八幡宮と背割り桜Pw

・実施日 2023 3/27(月) 報告 三宅 (15期)  
京都府南部に位置する八幡市は「石清水八幡宮」（平成28年に国宝指定）を中心として「東高野街道」に沿って街が開けている。所々に昔の風情を残す街道沿いには神社仏閣など多くの史跡がある。また「石清水八幡宮」のある「男山」の麓を流れる「宇治川」と「木津川」、「桂川」の三川はこの地域で合流し（三川合流と言われる）「淀川」となって大阪湾に流れ込む。「背割堤」は宇治川と木津川を隔てる堤防で春には1.4キロ続く桜のトンネルとなる。今回のPwは石清水八幡宮を中心に八幡市の史跡巡りと背割桜のお花見とした。

京阪石清水八幡宮駅10時に参加者11名全員集合。京都から高野山に向かう東高野街道を少し歩

き一番目の目的地「飛行神社」に徒歩5分で到着。珍しい名前の「飛行神社」は明治24年日本で初めて飛行実験に成功した二宮忠八（明治～昭和の軍人）が建立した神社である。大阪湾から引き揚げられ展示されている「零戦」のプロペラなどを見学した。次に二番目の目的地「単伝庵（らくがき寺）」に向かう。臨濟宗のお寺でお堂の壁に願い事を落書き出来るのだが殆どスペースが無いくらい落書きで一杯だった。メンバー誰も何故か落書きをしなかった。



<らくがき寺にて>

次に三番目の目的地「泰勝寺」へ。寛永の三筆と称された僧侶「松花堂昭乗」ゆかりの寺で大正7年に建立された。昭乗のお墓があり、石庭（南天の庭）がいいらしいが通常は非公開のため見学出来ない。しかし今回は金沢大学ワンダーフォーゲル部のOB会である事をお伝えし特別に見学させていただいた。住職不在のため奥様が庭園と宝物館を丁寧に案内してくださった。本堂と茶室は見られなかったが庭園は趣があって良かった。

ちなみに皆さんよくご存知の「松花堂弁当」は松花堂昭乗が絵道具や煙草盆として使っていた十字型の器を参考にして、昭和の初め料亭「吉兆」が作った弁当だそう。お寺の門前で記念写真を撮って、いよいよ石清水八幡宮のある男山へ。

男山山頂（142m）までは参道を30分登る。途中、松花堂昭乗の宿坊茶室跡などを見学し12時山頂到着。山頂展望台からは京都の市街、愛宕山から比叡山など周りの山々が一望出来る。

眼下には三川合流の桂川、宇治川、木津川、背割堤も近く見える。昼食後、石清水八幡宮の本殿（国宝）を参拝した。境内の桜は丁度満開で見事であった。近くにある「エジソン記念碑」で記念撮影。白熱電球の実用化に向けフィラメントの材料を探して見つけたのが八幡の竹だったそうで、

毎年エジソン生誕祭が行われている。表参道の石段をゆっくり 20 分下り「安居橋 (たいこ橋)」へ。大きく半円を描いた形の橋は大きな蔵屋敷を背景になかなか風情がある。少し移動し「頓宮殿」を通り抜け表参道入口に立つ「一の鳥居」の前で記念撮影。鳥居の前に八幡名物「走井餅」のお店があり買い求めるメンバーがいた。

最終目的地の「背割堤」までは徒歩 10 分程度だ。木津川に架かる御幸橋 (ごこうばし) 355m を渡り 15 時 30 分到着。桜は満開、天気快晴で凄い人出である。桜並木の入り口で運営協力金 100 円を払って入場し桜のトンネルを皆なでぞろぞろ 30 分程歩く。河川敷にはたくさんの屋台が出ていて大勢の人で賑わっていた。背割の桜は 1978 年に松からソメイヨシノへ植替え始め、1988 年 4 月に一般開放されたそうで歴史は新しい。河川敷に降りて輪になって桜並木を見ながらお茶とお酒少々を楽しんだ。コロナ後の久しぶりの宴で楽しかった。

17 時に石清水八幡宮駅に戻って解散した。

### 再々京都・長尾山 P w

・実施日 2023 4/25 (火) 雨天中止

### 再々々京都・長尾山 P w

・実施日 2023 5/10 (火) 報告 加藤 (11 期)

京都には有名なトレールがいくつかある。いわゆる観光登山のルートである。有名ゆえ、道もしっかりしているが、人が多いのが難点である。雑踏の山など行きたくはない。地元の人しか行かないような山をと探すと意外な発見もある。物語である。高瀬川と琵琶湖疏水、京都らしい景観を放つ人気スポット。そしてそれらを開削した角倉了以と第 3 代京都府知事の北垣国道の二人が、時代を越え、この山でつながるという物語である。

嵯峨野を歩いていて驚くのは、北に連なる山々は、地形図では無名の山ばかりなのである。実は毎冬、約 2 週間京都ステイする機会を 15 期の金井さん (今年の 1 月に逝去、ご冥福を祈ります) の好意で楽しんだ。ある年は毎日豆腐を食ひ、別の年は衣笠井にこだわり食べた。なるべく京都の庶民の生活を体験しようと、あちこちの銭湯にも入った。観光地でないところをなるべく選んで歩いた。しかし、北嵯峨野の山までは手を出さずにい

ただ。パソコンで調査すると低山だけに地元の人はまともな道があるかどうか不明なところを歩いている。それでもなんとか下見せずに長尾山 P w を計画した。そして雨で 3 度流れた。

調査で分かったこと、山の向こうの谷に堰堤を作ることで水面の高い菖蒲谷池を作り、なるべく稜線越えの隧道の長さを短くして反対側の嵯峨野に水を送っていたことを。それ造ったのが角倉了以の甥 (和算問題で有名な塵劫記の著者でもある) である。峠を越える隧道で反対側に水を送り土地を豊かにする。時代を超えたつながりというのはこの発想である。琵琶湖に対応するのが、規模が小さいながらも菖蒲谷池なのである。最初は稜線歩きだったが、菖蒲谷池と隧道との関係を見たさに道探しのため下見もした。さあ本番だ。



<長尾山 295.9m 山頂にて>

9:15 には京都駅 JR バス乗り場に全員が集合、バスに全員着座。乗ること約 40 分、230 円は安い。まず、平岡八幡宮に参拝。参拝よりもトイレが大事な人も居たような。ここから長刀峠に向かう。途中、某有名人の邸と寺があった。

長刀峠からはわずかな階段の登りで、すぐに稜線に出た。ミツバツツジは終わりモチツツジが咲いていた。登り少しとやや平坦道。これの繰り返しが何度あったろうか。時折り見える嵯峨野の俯瞰。広沢池、大沢池、大覚寺と田畑との調和が良い。昔ながらの景観が良く保たれているのは、景観保全地区で都市開発を不可としているからだ。

天気良さが、暑さに慣れていない体から汗を要求してくる。たいした距離ではないのに老兵の行軍。さぞかし滑稽な風景だろう。それでもほぼ正午に今日の最高点である長尾山 295.9m に着いた。ここまでくれば、あとはほぼ下り。一気に気分が和む。それぞれのザックから菓子だとか果物などが出てくる。低山だけど、南方面にはもう山がない。すこぶる展望が良い。一時間あまり食べて、おしゃべりをして、最後に記念写真を撮った。このまま稜線道を歩くか、それとも池に立ち

寄るかを諮ったら、菖蒲谷池の構造を見たいという。さすがに老いたりともどもKUWVは知的集団であることを証明した瞬間であった。京見峠からさらに5分で菖蒲谷池に着いた。隧道への水門が池の最上部にあるのがここの特徴。江戸時代初期によくもここまで考えたものと敬服した。下り5分でも、稜線への登りは10分かかった。

きれいに整備された嵯峨天皇陵前の石畳では伊豫喫茶店が開業。ああコーヒがうまい。陵からの下り道は北嵯峨から東山までの絶景だった。

北嵯峨公民館前の庭には、北垣国道書なる菖蒲谷池顕彰の碑があった。碑文には確かに角倉了以の文字があった。大覚寺の裏なのに、すぐ近くの飲料自動販売機がほぼ100円だったことに感動した人もいた。これも観光客用ではなく、地元の子供たち対象の販売機らしかった。

### 君影ロックガーデンと朝ドラPw

・実施日 2023 6/12(月) 雨天中止

### 武田・京都薬用植物園見学Pw

・実施日 2023 6/26(月) 報告 加藤 (11期)

2020年2月の瓜生山Pwだった。山麓の曼殊院のトイレを借りる目的もあって参拝を計画、その時、現地で武田薬品京都薬用植物園の存在を知ったのだ。この植物園について調査すると、一般開放どころか、年に数回だけしか公開しない。なかなか行けない施設だ。京都にはこのような通人を対象とした施設がよくある。

避難的な企画として使おうかと思い4月下旬に16名参加で申し込んだが、それではいかにも厚かましい。そこで希望を再調査し、その結果、希望者は8名。早速、氏名付きで訂正した。参加が確定するまでの約2週間は長く、50名の枠に何とか入れたのがわかった時は笑みがこぼれた。

当日は怪しげな空、集合地に近い叡電修学院駅からの道がややこしい。この辺りは自然発生的にできた住宅地、なので畑地の道がそのまま道になったところも多い。狭くて袋小路も多い。読図力により最適なコースの鷲森神社の社務所から裏道で素直に植物園に着くことが出来た。地図なしで勘だけで何とか行けると思った伊豫夫妻は四苦八苦して、時間ギリギリになっての到着だった。ここは自家用車ご法度の植物園、小雨なのに次々と

タクシーで来る人々には驚いた。それくらいに人気の見学会なのだ。参加の常連もいるらしい。

見学会は、10数名のグループごとに専門職員が付き添って指定順路に従って回る。指示された植物については、自由にちぎり、噛み、匂いを嗅いだりできるのだ。五感を使って楽しめる植物園というのも珍しい。我々のグループの最初が胃薬の原料となるヒキオコシなどであった。最初だからと張り切って味わったため、口中が苦さだらけに。また、室内では、生薬を食べる体験もあった。「朝鮮ニンジンがおいしい」との感想を述べると、それは体が必要としているのかも知れないといわれ、ギョッとした次第。いっぱい体験しすぎたので多くは忘れたが、赤紫蘇にも二種類あることが印象に残っている。生でも赤紫蘇の香り豊かな紫蘇と、どちらかというやや青紫蘇の香りがするものがあるということ。

小雨でも、実に楽しい実技見学会であった。



<元神戸にあった洋館建てを背景に>

最後に、お目当ての建物に寄った。係員の説明がなかったが、その前で記念写真を撮った。この建物は住友銀行本店の支配人であった田辺貞吉の邸宅として建てられた。その後、住友本家に。阪神淡路大震災で大きく損壊したため、一旦取り壊す計画になった。が、武田薬品が薬草園の迎賓館とする利用目的で購入。ここに修復移築した。設計者は中之島図書館を設計した野口孫市。

広い植物園、かつては曼殊院の敷地だったという。それゆえ曼殊院が近い。折しも曼殊院では、明治時代に失った宸殿の再建がなり、記念に国宝の「黄不動」も拝観可という。瓜生山Pw当時にはここにはなかった貴重な二つ、しかも「宸殿」の中で本物の「黄不動」を見ることができた。

帰りは一乗寺駅まで驟雨に見舞われたが、四条河原町の辻子で食べたラーメンがうまかった。

近畿支部の活動まとめ (2022 年秋以降)

名前に添字のある方は女性、○( )は期です。

2022 10/28(金)	<b>磯城・山邊Pw</b> (企画 加藤) 参加者 12 名
	金岩⑤ 伊豫⑧ 伊豫 a⑩ 加藤⑪ 加藤 s⑪ 森川⑪ 赤地⑫ 鈴木⑮ 高村 c⑮ 三宅⑮ 井上⑯ 黒崎(22) 長柄駅～大和神社～山の辺の道～歯定神社(昼食)～長岳寺～崇神天皇陵～黒塚古墳～五智堂～柳本駅
2022 11/14(月)	<b>六甲・菊水山Pw</b> (企画 加藤 s、高村 c) 参加者 12 名
	金岩⑤ 伊豫⑧ 篠島⑧ 伊豫 a⑩ 加藤⑪ 加藤 s⑪ 上馬⑮ 宇野 a⑮ 鈴木⑮ 高村 c⑮ 間所 m⑮ 三宅⑮ 神鉄鈴蘭台駅～菊水山登山口～菊水山～登山口～妙号岩の下～石井ダム～立ヶ畑ダム～石井橋バス停
2022 12/5(月)	<b>京都・大悲閣Pw</b> (企画 伊豫、加藤) 参加者 12 名
	伊豫⑧ 高水間 t⑧ 伊豫 a⑩ 畔山⑪ 加藤⑪ 加藤 s⑪ 森川⑪ 宇野 a⑮ 鈴木⑮ 高村 c⑮ 間所 m⑮ 三宅⑮ 阪急嵐山駅～中の島～大悲閣～渡月小橋～法輪寺～松尾大社～地藏院～浄住寺～阪急上桂駅
2023 1/20(金)	<b>高槻茨木古墳巡りPw</b> (企画 三宅) 参加者 16 名
	金岩⑤、伊豫⑧、篠島⑧、伊豫 a⑩、畔山⑪、加藤⑪、加藤 s⑪、森川⑪、野村⑫、赤地 k⑭、上馬⑮、宇野⑮、鈴木⑮、高村 c⑮、三宅⑮、井上⑯ 摂津富田駅＝氷室～今城塚歴史館～ハニワ工場公園～京大地震観測所～阿武山～阿武山口＝出発点
2023 2/20(月)	<b>姫路城の堀と城門巡りPw</b> (企画 加藤) 参加者 14 名
	金岩⑤、伊豫⑧、黒崎⑧、伊豫 a⑩、加藤⑪、加藤 s⑪、赤地⑫、野村⑫、赤地 k⑭、宇野⑮、宇野 a⑮、鈴木⑮、三宅⑮、井上⑯ 京口駅～外堀・中堀巡り～姫路総社～イーグル姫路～三の丸～男山～内堀巡り～車門跡～姫路駅
2023 3/27(月)	<b>石清水八幡宮と背割り桜Pw</b> (企画 三宅) 参加者 11 名
	伊豫⑧、篠島⑧、伊豫 a⑩、加藤⑪、加藤 s⑪、宇野⑮、宇野 a⑮、鈴木⑮、高村 c⑮、三宅⑮、井上⑯ 京阪石清水八幡宮駅～単伝庵～泰勝寺～男山展望台～八幡宮本殿～安居橋～背割り桜～八幡宮駅
2023 4/25(火)	<b>再々京都・長尾山Pw</b> (企画 加藤) 雨天中止
2023 5/10(火)	<b>再々々京都・長尾山Pw</b> (企画 加藤) 参加者 8 名
	伊豫⑧、伊豫 a⑩、加藤⑪、加藤 s⑪、森川⑪、高村 c⑮、三宅⑮、井上⑯ 京都駅＝梅ヶ畑清水町～平岡八幡宮～長刀峠～長尾山～京見峠～菖蒲谷池～嵯峨天皇陵～大覚寺
2023 6/12(月)	<b>君影ロックガーデンと朝ドラPw</b> (企画 高村 c、加藤 s) 雨天中止
2023 6/26(月)	<b>武田・京都薬用植物園見学Pw</b> (特別企画 加藤) 参加者 6 名
	伊豫⑧、伊豫 a⑩、加藤⑪、加藤 s⑪、宇野 a⑮、高村 c⑮ 叡電修学院駅～鷲森神社～京都薬用植物園(見学)～曼殊院(国宝黄不動参観)～叡電一乗寺駅



<京都浄住寺で集う近畿支部参加者 2022 年晩秋>